

## 最近話題となっている病害虫

沖縄県病害虫防除技術センター予察防除班 主任研究員 大野 豪

### ミツユビナミハダニ

学名：*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard

英名：tomato red spider mite

本種はナス科植物を主な寄主植物とし、南アメリカ起源とされるハダニであり、増殖力が高く植物体を枯死させるほど多発することもあるため、世界各地で侵入や被害拡大が警戒されている。日本では2001～2002年に本州（大阪周辺および東京）のナス科雑草から発見され、その後しばらく新発生地の報告はなかったが、2007～2010年に九州、沖縄、四国から相次いで発見され、南西方面への分布拡大が確認された。2015年には群馬県からも発見され、北上しつつある。鹿児島、沖縄、高知、奈良、長崎、群馬の各県では、ナス科の栽培種（ナス、トマト、ジャガイモ等）への加害が確認されたため、病害虫予察特殊報（以下、特殊報）が発表されている。なお、本種は日本からの発見当初に *Tetranychus takafujii* として新種記載されたが、その後の研究により、海外から記載されていた *T. evansi* と同種であるとされ、現在はこの学名が当てられている。

以下、沖縄県における本種の発生について概説する。筆者らが2007年に開始したハダニ相調査の過程で、本種を2008年11月に、伊良部島のテリミノイヌホオズキ等の雑草から初めて発見した。2010年10月には石垣島の露地ナスからも発見し、これが県内の栽培種における初確認となった。このナスの苗は沖縄本島（以下、本島）から導入されたものであったため、本種はすでに本島に侵入していることが疑われた。そこで、2010年11月以降、本島を中心とした県全域でナス科植物を調べたところ、本島中南部（うるま市、与那原町等）と伊良部島のナスおよびテリミノイヌホオズキで発生を確認した。県内の複数地点でナスへの加害が確認されたことを受け、2010年12月に県は特殊報を発表した。同年以前も本島中南部のナス科植物は調査されていたが、本種の発見はなかったため、同島にはごく最近侵入したものと思われた。一方、石垣島においては、当初の発生地を含めて発生は確認されなかっただけ定着できなかっただけ可能性があり、本島北部や宮古島、西表島等では、多数の地点が調査されたが発見され

ず、侵入していないと考えられた。特殊報発表の時点では、発生が確認された栽培種はナスのみであったが、2012年6月には、本島南部（豊見城市）のトマト栽培施設の周辺で野生化していたトマトにおける発生も確認された。それ以降の発生や被害の状況については不明であるが、現在までに、ナス科作物の害虫に関する診断依頼や防除相談では本種は確認されていないため、害虫として顕著に問題となっていることはないようである。

このように、沖縄県内では本種は急速に分布を拡大したものと考えられたが、その一方で、ナス科作物への被害は今のところ顕在化していない。この理由のひとつとして、本種は薬剤感受性が高いことから、通常防除が行われているほ場には定着しにくいくことなどが考えられるが、海外では本種のいくつかの殺虫剤への抵抗性が報告されているため、今後の抵抗性発達に注意する必要がある。

### 参考文献

後藤哲雄（2010）ナス科植物の重要な害虫である侵入種ミツユビナミハダニ. 植物防疫 64: 261-265.

大野豪ら（2012）沖縄における侵入害虫ミツユビナミハダニの分布拡大ならびに本種沖縄個体群に対する各種農薬の殺虫効果. 応動昆 57: 74-77.



図 ミツユビナミハダニの雌雄成虫（①雌 ②雄）

雌雄とも体色がオレンジ色であることが本種の特徴であるが、他種の成虫も同様の体色を示す場合があるため、同定には雄の挿入器等の検鏡が必要